

仕事、スポーツ、趣味、勉強、家族のだんらん、友人との楽しい時間。いくら時間があっても足りない！ そう思ったことはありませんか？

そんなあなたにご紹介するのが、睡眠代行サービス「Suma」-

このネックレスを首にかけるだけで、「Suma」があなたの8時間分の睡眠を1日1回肩代わりします。睡眠と同じ休息をとりながら仕事も、趣味も、何だって楽しめちゃうんです！

さらに、ブレスレットタイプも新登場！ 様々なファッションに合わせてご利用いただけます。

気になるお値段ですが、な、なんと！ 月額〇〇〇〇円！ ですが、この広告をご覧のあなたには特別に、初回限定、最初の3カ月を半額でお届けしちゃいます！

お申込みは今すぐ！ 電話番号は〇一〇〇—〇〇〇〇—〇〇〇〇、特設ページは「こちら」

南風 こまち

《《《《広告をスキップ》》》》

最近では電波環境が悪く、動画広告をスキップするのに時間もかかる。ニュースが出てくるまで、この忌々しいサービスの思い出を辿る。

睡眠代行サービス。

登場当時、画期的、いや、革命的とさえ言われもてはやされたサービスだ。私も登場当初、睡眠代行株式会社の工場を見学させてもらったことがある。半円状のカプセルに従業員が入り、そこでかつきり8時間の睡眠を摂るのだ。そこで生成された睡眠がサービス利用者に転送され、睡眠代行が為される。今や睡眠エネルギーは利用者の睡眠を肩代わりするだけでなく、農業やエネルギー産業にも転用されている。このサービスを使えば動物も眠らなくて済むため、家畜の成長を早めることができるのだという。

腕時計で時間を確認すると、手首に巻いた深い紫色のブレスレットが鈍く光った。忌々しいと言ったが、かくいう私もこのサービスの恩恵にあずかっている。だからもう何年も眠っていない。それなのに疲れ知らずだ。

車の後部座席から窓の外を眺める。街は寂れ、人影は少ない。ぼるん、ぼるん、ぼこん、ぼこんと車が跳ねる。

近頃は幹線道路の舗装さえままならなくなりつつある。

「大臣、大丈夫ですか？」

「ええ、平気ですよ」

スマホを取り落としそうになりながら、笑みを取り繕う。ようやく広告をスキップできたようで、ネットニュースのアーカイブが出てきた。もう何年前になるだろうかと日付を見たら、16年前だ。その頃から私は眠っていないのかもしれない。それでも普通に元気だし、歳相応にしか老いていない。

専用カプセルの中で8時間眠るだけでお仕事が完了！
あなたの睡眠エネルギーが人々の活力に、社会のエネルギーに生まれかわります。あなたも私たちといっしょに眠ってお仕事をしませんか？ 睡眠代行株式会社 Suma
正社員採用情報はこちら
アルバイト採用情報はこちら

≫≫≫広告をスキップ

新央新聞ニュースアーカイブ (204268)

睡眠代行サービス 国家支援へ

雪松内閣は29日、睡眠代行サービスに国家財政から支援を行うことを閣議決定した。

睡眠代行サービスを支援することにより、最先端科学研究や文化研究、成長産業の労働時間を確保し、さらなる成長を後押しする考え。また、年々増大が予想される睡眠代行サービスの需要に応え、経済的発展を加速させる。

労働省の尾鶴大臣は「強い産業をさらに強くするには、各分野を引っ張っていくリーダーにより働いてもらわないといけない。睡眠代行サービスは、安全に労働量を増やして成長させることができる手段であり、これを使えば効率的に幅広い分野で成長を促すことができる。今回の閣議決定は我が国の今後の成長を後押しする重要な施策だ」と語った。

政府はこの閣議決定を受け、労働基準法などの法改正を急ぐ考え。(大石)

この頃の私は労働大臣だった。私が国家支援を主導したかのような書きぶりだが、それは事実の一部ではない。私以上にこの国家支援の必要性を唱えたのが経済省の麦味大臣だった。今頃、我が国の惨状を空の上から見守っているのか、地獄の釜から見上げているのか、どうだろうか。

官邸のロータリーに車を寄せる。ドアマンなどいないが、自動でドアが開くためまだ問題ない。
官邸の中に入ると、報道関係者がばらばらと寄ってくる。

「総理、おはようございます」
「睡眠代行サービスへの支援を撤廃するというのは本当なんでしょうか？」

「慢性的な人手不足への対応についてどのようにお考えでしょうか？」
やはり人影は薄く、昔のように記者の大群に追われることもほぼなくなった。これだけは睡眠代行サービスの功績と言えるかもしれない。

建物の中を進み、執務室に入る。すると、見慣れない顔がいた。新しい秘書だ。聞いた所、前任の秘書は昨日付けで退職したとのこと。

「退職の理由は聞いた？」
「転職とのことです」
またか。

やがて時間通りに国会が始まる。いつものように退屈で生産性のない議論。まだこの国に元気があった頃、この時間は生産性を追い求めるための通過儀礼だった。しかし今は、何をやっても生産性には結びつかず、ただ漫然と生き残った伝統芸能に過ぎない。

新央新聞ニュース (2058921)

【速報】睡眠代行サービス 法規制へ

尾鶴内閣は21日、睡眠代行サービスに対して国家支援の打ち切りを含む法規制を執行する法案を右院に提出した。法案は明日にも与野党の賛成多数で可決される見込み。左院では19日に賛成多数で可決されており、法案の成立はほぼ確実となった。(今根)

新央新聞ニュース (2058929)

睡眠代行業雇用規制法 成立

28日、尾鶴内閣が提出した睡眠代行雇用規制法が右院で可決され、左右両院で可決成立した。来年度以降、睡眠代行サービスへの国家支援の打ち切りと、企業ごとに雇用人数の上限が設定される。

睡眠代行サービスについては、職種の人気の高さから雇用供給がこの15年で激増し、慢性的な雇用の不均衡を発生させ社会問題化していた。

しかし、睡眠から得られるエネルギーは既に社会インフラの基盤となっており、政府は今後代替エネルギーの確保に取り組む考え。ただ、エネルギー開発人材をどこまで取り戻すことができるかは不透明だ。

尾鶴首相は取材に対し「雇用の不均衡を是正することで、バランスの取れた社会成長を目指したい。この法案は我が国を眠りから覚ますための第一歩だ」と語った。(国村)

眠るだけでお給料がもらえる。

そんな魅力的な仕事に飛びつかない人はそうそういなかった。たくさん稼ごうたい人、たくさん遊びたい人、物好き、へそ曲がり、はみ出し者、信念を持った者、そんな人くらいしか起きていなかった。

あれだけ優秀とされた研究者も、科学者も、お偉方も、みんなみんな眠ってしまった。それだけでない。作る者、壊す者、動かす者、伝える者、社会を支える基盤となっていた者も片っ端から眠りに落ちていった。起き残った我々に残されていたのは、消費しきれないほどの睡眠エネルギーと、永眠しかける国だった。

この国を眠りから覚まさせることはできるのだろうか。

新央新聞ニュース (2059:4:4)

【選挙速報】 民和党が過半数議席を獲得 政権交代へ

4日に行われた解散総選挙の開票作業が行われた結果、野党第一党の民和党が議席数の単独過半数を獲得し、政権与党となることが確定になった。尾鶴政権率いる与党自由国民党は睡眠代行サービスへの法規制が国民の不評を買い、大幅に議席数を減らし下野した。尾鶴首相は退陣し、3年4カ月で尾鶴政権は終わることになる。

民和党党首の宇木氏は「睡眠代行サービスへの法規制は国家権力の横暴であり、尾鶴政権が国民からの信頼を失ったのは当然の結果だ。我々民和党は国民の声に寄り添い、真摯に国政に取り組んでいく」と語った。(鉛筆)